

国際漁業学会 (JIFRS) 短信

<http://www.jifrs.info/>

事務局 〒631-8505 奈良市中町 3327-204 近畿大学農学部内

Tel : 0742-43-6021 Fax : 074243-6021 E-mail: jifrs.kindai@gmail.com

郵便振替番号 : 00100-6-26448 国際漁業研究会

三菱東京UFJ銀行富雄(トミオ)出張所 普通口座 3698979 国際漁業研究会

2018年度第1号

2018年6月1日刊

目次

- | | |
|----------------------------|-----------|
| 1. 理事あいさつ「漁業とフィールド実験」 | 東田 啓作 |
| 2. 2018年度JIFRS大会(福岡大会)のご案内 | 大石 太郎・事務局 |
| 3. 編集委員会からのお知らせ | 婁 小波 |
| 4. 学会賞(国内賞)候補者の推薦依頼 | 八木 信行 |

1. 漁業とフィールド実験

東田 啓作 (国際漁業学会理事・関西学院大学)

私が最初に研究において漁業に触れたのは、福島大学経済学部(現、経済経営学類)に在籍していたころでした。同僚の研究者とともに、福島県いわき市の四倉でホッキ貝漁業の話をお聞きいただきました。私は大学院時代より貿易と環境という分野の理論研究を行っていたため、何かそのアイデアのもとになるものが見つかればという気持ちで行きました。お話を伺ってみると、資源が減少した経験をしたこともあり、様々な取り組みをしておられることが分かりました。漁業者の方々の行動や考え方に関心を持ち、東北や北海道の多くの漁業地区を訪ね、漁協の方やホッキ貝の漁師さんたちに話を聞いて回りました。皆さんそれぞれホッキ貝の漁業や資源管理について様々な取り組みをしておられたのですが、その手法や意思決定の仕方が多様であることが分かりました。研究者として、漁業者さんたちの行動をもっと深く観察してみたいと思うようになりました。

漁業資源は、経済学の基本的なテキストでは Common-Pool Resource (以下、CPR) に分類されます。もちろん漁業資源の所有権のあり方についてはその他にも概念とそれを表す単語が複数ありますが、ここではひとまず CPR として話を先に進めます。基本的なマイクロ経済学のツールを用いた分析によると、CPR は排除性を満たさないことから過剰利用の問題が発生します。

しかし、日本を含めた世界の多くの漁場は、完全なオープンアクセスではなく何らかの Common Property Regime が存在しています。厳しく資源管理されている漁場もあれば、ほとんど資源管理がされていない漁場もあります。制度やルールには、中央政府や地方政府によっ

て外生的に導入されたものもあれば、漁業者が自主的に導入したもの、あるいは慣習として定着してきたものもあります。したがって、過剰利用の内容や深刻さの程度には大きなバリエーションがあり、必ずしもすべての漁場で過剰利用が発生しているとは限りません。

過去数十年の間に、経済学では経済実験という手法が急速に普及しました。今ほど多くの研究者が経済実験を行うようになったのはそれほど古い話ではありません。経済実験を用いると、被験者の選好を明らかにしたり、経済学の基礎的な分析で得られる結論（市場取引行動など）と現実で観察される事実とがなぜ、どのように異なるのかを明らかにしたりすることができます。大学のパソコン端末室で行う実験室実験、調査地で行うフィールド実験などがあります。

近年、多くの地域、特に発展途上国の農漁村で実際の住民（資源利用者）を対象とした経済実験が行われ、CPRの利用行動が少しずつ解明されてきています。その中で、過去の災害や資源枯渇の経験、社会規範、あるいは利他性などの選好が、資源利用者の行動に影響を与えていることが示唆されています。

例えば、政府によるトップダウンの資源管理制度の導入は、逆に資源利用者の利他性やコミュニティの社会規範を弱め、資源の持続的利用を難しくするという研究結果があります（例えば、Cardenas et al., 2000, “Local environmental control and institutional crowding-out,” *World Development* 28, 1719-1733）。また、資源量の減少に直面すると資源利用者はより aggressive に資源採取を行うようになるという結果がいくつもの研究で示されています（例えば、Blanco et al., 2015, “Exogenous degradation in the commons: Field experimental evidence,” *Ecological Economics* 120, 430-439）。漁業活動における漁業者間の協力の経験が漁業者の競争意識を弱めるという研究結果もあります（Leibbrandt et al., 2013, *Rise and fall of competitiveness in individualistic and collectivistic societies*. PNAS 110, 9305-9308）。

私自身多くの方々のお世話になりながら、細々とフィールド実験を行ってきました。ホッキ貝についてはヒアリングが主ではありましたが、北海道の一部の漁業地区の方々には実験に参加していただきました。沖縄県宮古島地方、石垣島の漁業者の方々や住民の方々にも経済実験に参加していただきました。さらには、フィリピン、インドネシアの漁村の方々にもご協力いただきました。漁業地区、漁村でのフィールド実験研究は、漁業者や組合の方々のご協力なしには実施することは困難です。快くご参加いただいたみなさんには、心から感謝しております。

フィールド実験はアンケートに比べると時間がかかるため、被験者の方々に時間を割いていただくことになります。しかし、より正確に漁業者の行動や認識、それから集団での意思決定方法とメカニズムを明らかにしていくことができます。こうした地道なプロセスによって、自主的に持続的な資源利用を可能にしていくための方策を見つけ出ししていくことができると考えています。また、漁業者や漁業者コミュニティ・漁村は、選好、歴史・経験、社会経済要因、社会規範、文化などの観点から極めて多様です。その多様性を維持しながら、それぞれにとって望ましい資源管理を行っていける意思決定の仕組みをデザインできればと思っています。

国際漁業学会には、実際の漁業を知っている方がたくさんいらっしゃいます。また、漁業資源と自然要因との関連に詳しい方もたくさんいらっしゃいます。私とは異なる分野の多くのスペシャリストの方々との情報交換や共同研究を通して、本学会に貢献できればと考えています。

2. 2018 年度 JIFRS 大会（福岡大会）のご案内

大石 太郎（国際漁業学会理事・福岡工業大学）・事務局

2018 年度 JIFRS 大会は、福岡工業大学で開催されます。多くの会員、関係者の皆様方の奮ってのご参加をお待ちしております。

◆日時・会場：

2018 年 8 月 6 日（月）～7 日（火）・福岡工業大学（最寄駅：JR 鹿児島本線 福工大前駅）

※福岡市では大きなイベントが行われる際にホテル不足が発生することがございますので、宿泊先の確保はお早めをお願いします。

◆スケジュール：

8 月 6 日 午前：10:45～11:45 編集委員会（会場：福岡工業大学 FIT ホール 2 階 会議室 2）

12:00～13:00 理事会（会場：福岡工業大学 FIT ホール 2 階 会議室 2）

午後：13:30～17:45 シンポジウム（会場：福岡工業大学 FIT ホール 2 階 セミナー室 1・2）

18:15～20:00 懇親会（会場：福岡工業大学 レストラン OASIS）

8 月 7 日 午前：個別報告（会場：福岡工業大学 FIT ホール 2 階 セミナー室 1・2、会議室 1）

（個別報告申し込み数が多い場合、午後にも追加します）

午後：総会（会場：福岡工業大学 FIT ホール 2 階 セミナー室 1・2）

◆2018 年度国際漁業学会（JIFRS）大会シンポジウム

「水産経済研究における実験的手法－資源管理を対象に－」

コーディネーター 松井隆宏（三重大学）

近年、行動経済学、実験経済学の発展にともない、経済学研究における実験的手法の役割が高まっている。そこで、本シンポジウムでは、ラボ実験、フィールド実験、オークション実験、離散選択実験の 4 種類の実験的手法を用いた研究報告をもとに、水産経済研究における実験的手法の可能性について検討する。その際、「資源管理」という統一的なテーマを設けることで、漁業・水産業に対する直接的なインプリケーションについても議論をおこなう。

日時：2018 年 8 月 6 日 13:30～17:45

開会挨拶 多田稔（近畿大学） 13:30～13:35

解題 松井隆宏（三重大学） 13:35～14:05

<生産側からのアプローチ>

報告 1 後藤潤（神戸大学） 14:05～14:35

ラボ実験の事例

報告 2 東田啓作（関西学院大学） 14:35～15:05

フィールド実験の事例

休憩 15:05～15:20

<消費側からのアプローチ>

報告 3 若松宏樹（中央水産研究所） 15:20～15:50

オークション実験の事例

報告 4 徳永佳奈恵（中央水産研究所） 15:50～16:20

離散選択実験の事例

コメント 未定 16:20～16:50

休憩 16:50～17:00

ディスカッション 17:00～17:40

挨拶 未定 17:40～17:45

◆報告予定者に向けた連絡事項

・個別報告について

個別報告は1報告あたり25分（質疑含む）の予定です。個別報告を希望する会員は、報告者の氏名、所属、および報告タイトルを、6月30日までに国際漁業学会事務局（jifrs.kindai@gmail.com）までご連絡ください。また、7月15日までに報告要旨（40字×25行以内）を、7月31日までにパワーポイント等による報告資料（当日までに改変可、事前に座長に渡します）を、それぞれメールで事務局まで提出してください。

・報告論文について

シンポジウム報告および個別報告の報告者におかれましては、大会終了後に報告内容をベースとする10枚程度までのコンパクトな和文論文を「報告論文」として和文誌『国際漁業研究』に投稿することができます。報告論文の査読手続きは一般投稿論文と同じで、掲載料は1万円となっています。報告予定者におかれましては、「報告論文」への奮っての投稿をお願いします。

◆参加費・会費：当日受付にて徴収

大会参加費：一般会員2,000円、一般非会員3,000円（地元漁業関係者・学生は無料）

懇親会費：一般5,000円、学生3,000円

※懇親会へ参加される方は、7月15日までにメールにて国際漁業学会事務局（jifrs.kindai@gmail.com）までお申し込みください。

※報告要旨集は配布しませんので、要旨等は、各自で事前にホームページ（<http://www.jifrs.info/>）からダウンロードをお願いします。（7月20日頃に掲載します）

詳細なスケジュールや会場情報は、随時ホームページに掲載していきます。

3. 編集委員会からのお知らせ

婁 小波 (国際漁業学会理事・編集委員長)

2017年度総会(2017年8月6日開催)において、国際漁業学会誌にシンポジウム報告に加えて個別報告の報告内容をベースに作成された10枚程度までのコンパクトな和文論文を「報告論文」として収録することが承認されました。

来る2018年度学会大会において個別報告を予定している皆様におかれましては、「報告論文」への積極的なご投稿をお願いします。報告論文の査読手続きは一般投稿論文と同じとし、1万円の掲載料を徴収することとなっております。

なお、2018年3月28日開催の理事会において、「報告論文」の取扱いについて、下記のことが提案され、次回総会の議に付されることとなりましたので、併せて周知します。

皆様の「報告論文」のご投稿をお待ちしております。

記

1. 「報告論文」の投稿締め切り日を一ヶ月早め、10月末とする。
2. 「報告論文」の投稿締め切り日(10月末)に間に合わなかった個別報告者や、「報告論文」を投稿しながら審査途中で取り下げた個別報告については、当該年度での「報告論文」としての投稿資格は失効するものとする。

4. 学会賞(国内賞)候補者の推薦依頼

八木 信行 (国際漁業学会学会賞選考委員長・東京大学)

2018年度の学会賞候補者の選考を開始します。選考要領は下記の通りです。自薦・他薦を受け付けますので、積極的に推薦してください。賞の種類は以下の3種類です。

<功績賞>学会の活動に対して大きな貢献のあった会員。

<学会賞>書籍、もしくは一連のまとまった研究を通して、学術の発展に大きく寄与した会員(個人)。過去1年間(2017年1月~2018年4月)の業績が対象です。

<奨励賞>おおむね40歳以下で、本学会誌に掲載された論文、もしくはそれを含む一連の研究を通して、学術の発展に寄与した会員(個人)。本学会誌第16巻掲載論文(会誌としては未刊行(近刊)ですが、on line ジャーナルの第16巻に掲載されている和文・英文の計5件)が対象となります。

募集期間: 2018年6月30日(土) 締め切り

推薦方法: 推薦する賞のジャンルとその理由(形式自由)を、JIFRS 会長(多田稔 tadacom@nifty.com)宛てに、Eメールにて送付してください。

選考方法: 会長が学会賞選考委員会に諮って候補者を決め、理事会の承認を得て決定します。

賞の授与: 2018年度国際漁業学会大会の際におこなう総会にて授与します。受賞候補者には事前にお知らせしますので、ぜひ大会へのご出席をお願いします。